# すみだ地域学情報 We!

第62号
2023年
（令和５年）
３月発行

発行：墨田区（地域活動推進課）
〒130-8640　墨田区吾妻橋一丁目23番20号
☎03-5608-6202　FAX 03-5608-6934
✉KATSUDOSUISHIN@city.sumida.lg.jp

ひと、つながる。
墨田区


## すみだのまちのオーケストラ「新日本フィルハーモニー交響楽団」

第641回定期演奏会（佐渡裕指揮）
atすみだトリフォニーホール　©大窪　道治

### ■創立50周年を振り返って

新日本フィルハーモニー交響楽団（以下、新日本フィル）は、昭和47年（1972）7月、指揮者小澤征爾、山本直純の下、自主運営のオーケストラとして誕生しました。人々に音楽の楽しさを伝えたテレビ番組『オーケストラがやってきた』が記憶に残っている方も多いのではないでしょうか。ニューヨークの国連総会議場で日本のオーケストラとして初めて演奏したのも新日本フィルです。

これまで、小泉和裕、井上道義、クリスティアン・アルミンク、上岡敏之らが音楽監督を務め、また世界の名立たる指揮者や音楽家と、音楽史に残る数々の名演を繰り広げてきました。また、久石譲が音楽監督を務める新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラでは、映画『千と千尋の神隠し』『ハウルの動く城』『崖の上のポニョ』等で管弦楽を担当し、幅広い層に熱狂的な人気を博しています。

平成9年（1997）、すみだトリフォニーホールを本拠地とし、日本初の本格的フランチャイズを導入。それまでホームグラウンドを持たなかったオーケストラにとっては、念願のフランチャイズ・ホール。本番と同じ環境で練習できるため、上質な音づくりにより一層力を入れられるようになりました。そして、墨田区のフランチャイズ・オーケストラとして、「音楽鑑賞教室」や、「まちかどコンサート」など、街のあちらこちらで音楽活動を行ってきました。墨田区と共に25年を歩んできた楽団員の区への愛着もひとしおです。また、墨田区の企業・個人の皆さんから成る「新日本フィルを支えるすみだの会」は、寄付の応援だけでなく、演奏の場の提供や応援のメッセージなど、コロナ禍で運営に苦しむオーケストラを真心で支えてくださいました。

創立50周年を迎えた令和4年（2022）7月は、シャルル・デュトワ、上岡敏之の特別演奏会やこれまでの新日本フィルに縁（ゆかり）の深い指揮者、未来のクラシック音楽界を担う若手音楽家らが名を連ねた定期演奏会でアニバーサリー・イヤーを祝いました。

### ■新しい音楽監督の就任と今後の展望

令和5年（2023）4月より、佐渡裕（現新日本フィルミュージック・アドヴァイザー）が第5代音楽監督として就任します。「音楽は心のビタミン」と話す佐渡音楽監督の下、誰もが楽しめる名曲を中心に、クラシック音楽の美しさ・エネルギー・感動をお届けしてまいります。

新シーズンは、人気・実力ともにナンバーワンのピアニスト辻井伸行と佐渡裕の華麗な共演で幕を開け、シャルル・デュトワ、ジョゼ・ソアーレス、久石譲、秋山和慶らが登場、ウィーンにちなんだプログラムで新日本フィルと名演奏を響かせます。

墨田区の皆さんへ特別な割引がある「すみだクラシックへの扉」シリーズは、CM・ドラマなどどこかで耳にしたことのある名曲のコンサート。佐渡音楽監督のドヴォルジャーク「新世界」ではじまり、前音楽監督である上岡敏之のシューベルト「グレイト」で幕を閉じる充実した内容です。

令和4年（2022）4月より「すみだ音楽大使」としても活躍中の佐渡裕による地元の中学校・高等学校の管弦楽部の指導や、すみだトリフォニーホールでの参加型コンサートなどを通じて区民の皆さんとの触れ合いも生まれています。

街とホールとオーケストラの3拍子揃う墨田区だからこそ、このような素晴らしい体験ができるのです。いつでも気軽にコンサートを聴きにいける環境を墨田区の皆さんに誇りに感じていただけるよう、音楽が生み出す豊かな喜び・湧き上がる活力を一人でも多くの方に届けられるよう、励んでまいります。

（公益財団法人
新日本フィルハーモニー交響楽団
広報チーム）

新しい音楽監督（第5代）に就任する佐渡裕
©Takashi Iijima

# すみだトリフォニーホール 開館25周年

## 夢や想いを次世代につなぐ わがまちのホール

### ■すみだトリフォニーホール 施設概要について

平成９年（１９９７）10月26日、すみだトリフォニーホールは東京東部地区を代表するコンサートホールとして錦糸町に誕生しました。優れた音響性能を誇る客席数１８０１席の大ホールと、室内楽や発表会に適した２５２席の小ホールを有し、開館以来25年間にわたり芸術文化の創造・発信拠点であり続けています。また、フランチャイズ・オーケストラ新日本フィルハーモニー交響楽団（以下、新日本フィル）との連携・協力により多彩な自主・協働企画事業を行っています。

### ■地域との関わり

子どもたちの豊かな感性や想像力を育むため、新日本フィル・メンバーによるアウトリーチ・プログラムを通して、区内すべての小中学生がオーケストラ演奏を間近で鑑賞する機会を設けています。

また、子育て支援事業や、障害者・高齢者福祉施設などで、あらゆる人が音楽に触れられる事業を積極的に展開しています。令和４年度からの新たな活動として、特別支援学級において、音楽の持つ特性を活用した音楽療法を始めました。さらに、中学校部活動の地域移行の支援に向けて、区立中学校吹奏楽部への演奏指導も実施しています。

今後も社会的課題の解決に貢献するため、誰もが気軽に音楽に触れ、参加できる環境づくりを進めていきたいと考えています。

小中学校音楽指導事業の様子

### ■開館25周年を振り返って

令和４年度すみだトリフォニーホールは開館25周年、新日本フィルは創立50周年という節目の年を迎え、すみだ音楽大使の佐渡裕氏（令和５年４月から新日本フィル音楽監督就任）の下、ホール、新日本フィル、区民の皆様と共に、企画し創り上げる25周年記念コンサートを実施しました。

#### 25thアニバーサリーウィーク vol.1

区立中学校全10校合同のバンドクリニックと呼ばれる"公開講習"を実施しました。各校で練習してきた「アフリカン・シンフォニー」をこの日初めて１４１名という大編成で合奏。最初は緊張で弱々しかった音色も、佐渡氏のアドバイスを受け見違えるように変化。「音楽の魅力は、本番が１回しかないところ。間違えることを恐れずに演奏を楽しんで！」という言葉どおり、最後は全員が気持ちをひとつにして音楽を楽しみ、素晴らしい演奏を披露。満員のお客様に大きな感動を届けました。

#### 25thアニバーサリーウィーク vol.2

すみだと言えば「第九」。オーディションを経て結成された区民による25周年記念合唱団が、数か月間にわたり積み重ねてきた練習の成果を佐渡裕指揮、新日本フィルの演奏で披露。ホール誕生の契機ともなったベートーヴェンの「第九」が高らかに響きわたり、満場のお客様を魅了しました。

### ■今後の展望

すみだ音楽大使の佐渡氏は、「すみだの街にこんなにも素晴らしいホールがあり、日本を代表するオーケストラがいるという特性を最大限に活かし、街に音楽の力、音楽の魅力を広げることが私の使命。ホールとオーケストラが街の人々の生活の一部となり、街の宝物であると感じてもらいたい。」と語り、精力的に墨田区内での活動に取り組んでいます。

「トリフォニー」とは、３つの音が同時に響くこと。「区民」「アーティスト」「ホール」の三者が一体となって響き合い、美しいハーモニーを奏でるとき、そこに大きな感動が生まれるという意味が込められています。

「トリフォニー」の言葉に込められた夢や想いを次世代につなぎ、これからも区民の皆様にとって「わがまちのホール」と親しんでいただけるよう、魅力あふれる音楽芸術を発信していきます。

（公益財団法人墨田区文化振興財団
音楽事業課担当課長　濱野　千鶴）

上：令和４年10月26日実施
区立中学校全10校合同バンドクリニックの様子
下：令和４年10月29日・30日公演
「佐渡×さだまさし×新日本フィル×すみだの第九」
©三浦　興一